

# バーチャルサラウンド技術

木村 勝\*  
松岡文啓\*

Virtual Surround Technology

Masaru Kimura, Bunkei Matsuoka

## 要 旨

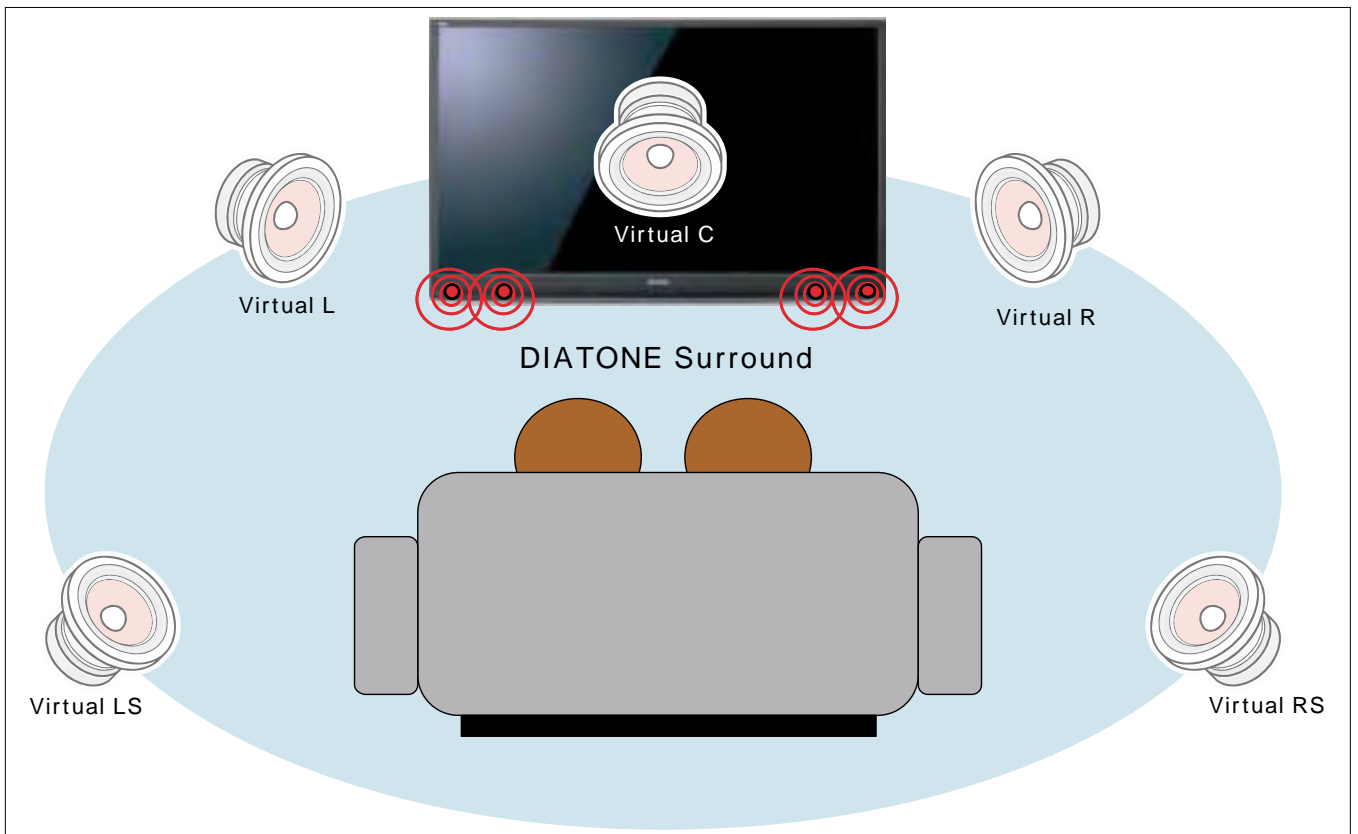
5.1chに代表されるサラウンド音声信号が、DVD( Digital Versatile Disk )やBD( Blu-ray Disc )のようなパッケージメディアやデジタル放送のフォーマットとして普及するようになってきた。これによって、リスナーは包みこまれるような臨場感のあるサラウンド音空間を家庭でも体感できるようになった。

本来、サラウンド音声を再生するためには、サラウンド再生用の専用アンプとチャンネル数分のスピーカーが必要となる。これに対して、フロントサラウンド技術という新しい再生技術を用いることで、前方のスピーカーだけで手軽にサラウンド効果を実現することができる。フロントサラウンド技術には、室内での音の反射を利用した方式と、リスナーの耳元に到達する音を制御して仮想的にサラウンド効果を与えるバーチャルサラウンド技術がある。特に、部

屋環境に合わせたチューニングの必要がないバーチャルサラウンド技術が注目を集め、現在、多くの製品に実装されている。しかし、従来のバーチャルサラウンド技術ではスイートスポット(サラウンド効果が得られる受聴エリア)が狭く、スイートスポットから外れるとサラウンド効果が得られなくなるという課題があった。

三菱電機では、スイートスポットを大幅に拡大させた独自のバーチャルサラウンド技術“DIATONE Surround<sup>(注1)</sup>”を開発した。この技術は、前方の4本のスピーカーを用いてサラウンド空間を創出する全く新しい信号処理技術である。この技術は当社の液晶デジタルテレビ( DTV ) MZWシリーズに搭載しており、ユーザーは液晶DTVのみで手軽にサラウンド音声空間を楽しむことができる。

(注1) DIATONE Surroundは、三菱電機株の登録商標である。



## DIATONE Surround

当社独自のバーチャルサラウンド技術“DIATONE Surround”を液晶テレビに組み込んだ例である。DIATONE Surroundは前方の4本のスピーカーだけでサラウンド音声空間を仮想的に創出することができるため、サラウンド再生用の専用機材がなくてもリスナーは手軽に5.1chサラウンド音声を楽しむようになる。